

会議の概要

構成員

◆研修部会構成員

- ・ 研修部会構成員名簿
-

議題

◆令和4年度宮城県教職員研修計画（案）について

- ・ 令和4年度研修事業の概要について
 - ・ 大学等との連携協力による研修について
-

概要

◆令和4年度研修事業の概要について

- 「みやぎの教員に求められる資質能力」の7項目に照らし合わせながら、教職員の経験年数や職能の各段階に応じた研修をさらに充実させるために、研修内容の精選と集合研修のスリム化を行う。
 - ・ 研修内容の精査と実施方法の工夫改善による効果的・効率的な研修の推進
 - ・ 学校経営力向上を図るための「管理職研修」を新設
- ICTを効果的に活用した研修の推進し、積極的に活用することで、負担軽減を図り、教員が児童生徒と向き合う時間を確保しながら、効果的・効率的な研修方法に転換していく。
 - ・ Mナビオンラインを活用した研修
 - ・ 不測の事態が生じた際の影響を最小限に抑えるための研修実施方法に対応
- 学力向上に向けた授業づくりを重視する研修や事業を行う。
 - ・ 教科等の研修において実際の授業を活用した実践的な研修等の実施
 - ・ 学習指導要領の趣旨の実現に向けた「授業改善」に活用できる研究成果物の普及や活用の支援
 - ・ GIGAスクール構想の実現に向けたICT活用指導力の向上を図る研修の実施
- 子供の命を守るための研修として、教職経験年数や職能に応じた知識・技能の向上を図る。
 - ・ 職能（新任校長、防災主任、安全担当主幹教諭）に応じた防災研修の実施
 - ・ 新規採用者全員を対象とした防災研修の実施
 - ・ いじめや不登校の未然防止に関する実践的な内容の研修の実施
- 学校教育法の改正やチーム学校への取り組みなど、学校事務職員に期待される役割に対応するため、求められる資質能力に応じた研修を実施する。
 - ・ 組織運営に参画する際に必要なスキル習得のために「チームビルディング講座」を新設
 - ・ マネジメント能力の向上を図るための階層別研修の充実（新任事務室長及び新任班長を対象とした研修の実施日数拡大）

◆大学等との連携協力による研修について

- 令和3年度に大学等との連携協力により実施した研修について
 - ・ 音楽科研修会（小学校）

宮城教育大学

- ・ 社会科研修会（小学校） 宮城教育大学
- ・ 社会科研修会（中学校） 宮城教育大学
- ・ 社会科研修会（高等学校） 宮城教育大学
- ・ 技術科研修会（応用コース） 宮城教育大学
- ・ 高等学校産業教育研修会（ロボット制御） 東北工業大学
- ・ スクールミドルリーダー養成研修会（小・中学校） 宮城教育大学教職大学院
- ・ スクールミドルリーダー養成研修会（高等学校・特別支援学校） 宮城教育大学教職大学院

※ 上記外の7つの研修会については、実施を予定していた期日が、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う国の緊急事態宣言対象地域に指定されたため、大学と協議し「中止」とした。

○ 大学等との連携協力により行った研修の成果について

[教員の声]

- ・ 環境の整った大学施設を利用でき、講師から専門性の高い先進的な講義が受けられた。
- ・ 研究協議や演習を通して真摯に学ぶ学生の豊かな発想とアイデアに触れ、教員としての多様な視点を持つことの重要性やそれらを楽しむ柔軟性が大切であることを再認識できた。
- ・ 学生の意見を聞いたり、アドバイスをしたりすることで、教員としてのOJTに対する意識を高める機会になった。

[大学・学生の声]

- ・ 現職教員と学生が共に協議や演習を行い、ディスカッションすることで、実際に学校現場で起こる反応や指導のねらいを達成するためのアプローチ等について話を聞くができ、教員への魅力をより感じる機会となった。
- ・ 大学での講義内容等を実際に生かす手立てについてイメージできる機会となった。

[まとめ]

- ・ 大学と総合教育センターが相互に持つ資源を出し合い、先進的な研修内容に取り組むことができた。
- ・ 学生に対しては、早い段階から教職の魅力を感じてもらえるメリットがあり、教員に対しては、教員としての使命感や教育的愛情を深め、広く豊かな教養や人間性を磨くことへの意識を向上させる機会となった。

○ 今後の方向性について

今後も、本県の未来を担う子供たちを育てる教員について、教育界全体で育成するという姿勢を堅持し、大学等との連携協力による研修の充実を図っていく。また、教員を目指す学生に対しては、教員養成段階で、実際の教員の姿や学校現場の声を体感できるよう、教員と学生が共に学べるような企画を双方で考案していく。